

<b>経済政策論</b>		<b>講義</b>	<b>教授 小関 広洋</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>国際ビジネスコースの専門 選択科目、会計ファイナン スコースの専門選択科目、 経営・経済コースの選択必 修科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>23221203</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

経済政策とは何か、その目的と手段を理解した上で、日本経済が直面している課題について、政策の背後にある考え方とその長所・短所について考える。経済政策の各分野を概観し、現実にどのような政策が行われているかを理解する。なお、本科目の履修にあたっては、「日本経営論」、および経済学関連の基礎科目を履修しておくことが望ましい。

### 2. 授業の進め方

毎回スライド資料に沿った講義形式で進める。また随時、事例研究も行う。理解の定着と考え方を養うため、原則として毎回、練習問題（記述式または穴埋め式）を課し、成績評価に反映する。

### 3. 授業計画

1. イントロダクション：経済政策の目的	9. 産業・農業政策
2. 日本経済が直面している課題	10. 所得再分配の理論
3. 日本経済の発展と経済政策の役割	11. 税制の効率性と公平性
4. 経済政策のための経済学基礎理論	12. 年金・医療・社会保障制度
5. 財政政策と金融政策	13. 政策実現の阻害要因
6. インフレ・デフレと失業	14. 日本経済システムの将来を考える
7. 労働市場改革	15. まとめ
8. 環境・エネルギー政策	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに、前回の授業内容を復習しておくこと。さらに、授業中に指示された事項について、調べておくこと。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

練習問題については、授業の中でポイントを解説する。試験については、実施の際に出題意図を説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

経済政策の基本概念と日本経済の課題を理解し、現実の経済政策に対して自分なりの意見を持ち、評価ができる。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（授業中の練習問題への評価を含む）50%、定期試験の成績50%によって評価する。

### 8. テキスト・参考文献

毎回用意するスライド資料を使用する。

### 9. 受講上の留意事項

新聞やニュースなどを通じて、日頃から経済や経済政策に関する情報に関心を持つこと。

### 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、金融機関およびコンサルティング業務における実務経験を活かして指導する。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。